|  |  |
| --- | --- |
|  | **第９章 病診連携等推進対策** |

【現状と課題】

|  |  |
| --- | --- |
| 現　　状  １　医療機関相互の連携  ○　軽症の患者が地域の基幹的病院を受診することで、待ち時間が長くなるとともに、病院の重症患者の受入に支障が出ています。また、軽症患者への対応に追われ、病院勤務医の負担が増大しています。  ○　当圏域内の病院、診療所は患者の症状に応じて、他の医療機関に紹介・転送しています。  ○　患者の紹介・転院に伴う診療情報の提供も  併せて実施されています。  ２　病診連携システムの現状   * 愛知県医療機能情報提供システム（平成29(2017)年度）によると、地域医療連携体制に関する窓口を設置している病院は9病院です。   ○　岡崎市民病院は、岡崎市医師会との間で医療連携を推進し、患者の紹介・逆紹介システムを運用しています。  ○　岡崎市民病院は検査依頼システムにより開業医等から検査依頼の受け入れをしています。  ○　歯科診療所は、病診連携システムにより、歯科口腔外科を有する病院（岡崎市民病院）へ患者紹介を実施しています。  ３　医療連携体制  ○　当医療圏では、地域の基幹的病院と岡崎市医師会が共同で、脳卒中、大腿骨頚部骨折、前立腺がん、乳がん術後、ＣＫＤ、糖尿病・内分泌疾患、Ｃ型肝炎、急性冠症候群（急性心筋梗塞）分野においての地域連携クリティカルパスを運用しています。これにより、患者診療計画が明確化され、基幹的病院とかかりつけ医の連携が進んでいます。  ４　地域医療支援病院  ○　地域医療支援病院については、岡崎市民病院が平成21(2009)年9月に承認を受けています。  　　これにより、入院部門の一部開放化や高度医療機器、施設の共同利用を実施しています。 | 課　　題  ○　住民への適正受診の周知啓発を更に推進する必要があります。また、地域でかかりつけ医をもつよう、あわせて啓発する必要があります。  ○　病診連携を促進し、ＩＴ技術を活用した医療情報の共有や共同利用を図っていく必要があります。  ○　地域医療連携体制に関する窓口を設置する病院が更に増加し、地域医療機関との連携が円滑に実施できることが望まれます。  ○　地域医療支援病院と地域の医療機関との連携をさらに進める必要があります。 |

【今後の方策】

　　 ○　当医療圏全体をカバーする病診連携システムの整備を進めます。

○　高度医療機器・施設の共同利用、地域の医療従事者等に対する研修機能の強化等、地域の医療機関が連携する体制づくりを進めます。

*用語の解説*